

択された。サミット後における、世界の地域、特に途上国や、先進国大都市の退廃地区などの状況についても述べている。

IPCCの果たしてきた役割、その中での気候モデルによる予測研究の成果などの記述が乏しいのは若干気

になるが、本書は、著者やストロングなどが、大きな関心と懸念をもって、子々孫々に及ぶ地球環境の問題に取り組む姿勢が伝わる書である。

(地球フロンティア研究システム 近藤洋輝)

2003年度春季大会の報告

2003年度春季大会は、つくば国際会議場（茨城県つくば市）を会場として2003年5月21日（水）～24日（土）に行われた。最近の講演数増加による過密日程や講演時間短縮の緩和を目的として、今大会では従来の三日間から四日間への会期の延長が試行された。また平日の参加が難しい会員のために、初めて土曜日にも開催されることとなった。参加者数（前納登録者と当日受付者の合計）は890名（一般会員556名、学生会員182名、非会員152名）で、このうち土曜日への参加は81名であった。

2日目午後には、つくば国際会議場大ホールにおいて総会が開かれ、津田敏隆会員に日本気象学会賞が、木村龍治会員と高橋劭会員に藤原賞が授与された。総会終了後、東アジア地域における学会間交流推進を目指して今大会から催された「東アジア気象学会交流会」が行われ、韓国気象学会を代表して招待された Jong-Ghap Jhun 教授（韓国気象学会長、ソウル大学）と In-Sik Kang 教授（ソウル大学）のお二方からご講演を頂

いた。引き続き、三名の受賞者による記念講演が行われた。3日目午後にはつくば国際会議場大ホールにおいて「ヒートアイランドー熱帯夜の熱収支ー」と題して大会シンポジウムが行われた。

今回はポスター及び口頭発表による一般講演と特定のテーマに基づいてコンペーターが編成する7つの専門分科会とが行われた。一般講演の発表申込み件数は418件（内訳はポスターが284件、口頭発表が134件）、分科会は70件で計488件となり、2002年度春季大会に記録した466件を更新し過去最高の件数となった。

会期中およびその前日には、個別のテーマによる研究会が4件開かれた。

最後に、今大会実行委員会として大会準備・運営にご尽力頂いた筑波大学地球科学系、国立環境研究所、産業技術総合研究所、農業環境技術研究所、防災科学技術研究所の皆様へ深く感謝の意を表します。

2003年6月 講演企画委員会

2003年度秋季大会における保育施設の紹介について

標記大会（10月15～17日、宮城県民会館等）に参加される会員のため下記の保育施設を紹介しますので、保育を希望される方は直接施設へ問い合わせ願います。

施設名：「ベビーホームおのぞら」

住 所：仙台市青葉区立町23-24

定禅寺通りライオンズマンション204

電 話：022-262-8633

保育時間：希望する時間

2003年度秋季大会実行委員会

なお、一時保育施設を利用する会員には、実行委員会で費用の一部を補助します。利用を予定される方は10月8日（水）までにご連絡ください。

不明点、その他の問い合わせも下記にお願いします。

連絡先：仙台市宮城野区五輪1-3-15 仙台管区気象台

日本気象学会東北支部事務局 佐藤信榮

Tel：022-297-8105, Fax：022-297-8134

e-mail：satou-nobu@met.kishou.go.jp